

[0017]九州大学生体防御医学研究所年報 : 2002年

<https://doi.org/10.15017/6249>

出版情報 : 九州大学生体防御医学研究所年報. 17, 2003-07. 九州大学生体防御医学研究所
バージョン :
権利関係 :

II 生体防御医学研究所主催セミナー

生体防御医学研究所セミナー

第 322 回 平成 5 月 9 日 (火)

谷内一郎 (九州大学生体防御医学研究所発生工学分野)

「T リンパ球分化における Runt-domain 転写因子の役割と epigenetic gene regulation」

第 323 回 平成 14 年 6 月 24 日 (月)

赤池孝章 (熊本大学医学部微生物学教室)

「感染・炎症病態におけるニトロ化とニトロソ化ストレス」

第 324 回 平成 14 年 7 月 2 日 (火)

Dr. Harvey Lodish (マサチューセッツ工科大学、Whitehead 医学生物学研究所)

“Signaling by the erythropoietin receptor”

第 325 回 平成 14 年 6 月 19 日 (水)

真木寿治 (奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科)

「複製開始制御異常が誘発する染色体異常と細胞死：G2/M チェックポイントの新たな役割」

第 326 回 平成 14 年 7 月 23 日 (火)

高橋良輔 (理化学研究所・脳科学総合研究センター運動系神経変性研究チーム)

「家族性パーキンソン病と小胞体ストレス」

第 327 回 中止

第 328 回 平成 14 年 8 月 6 日 (火)

竹中繁織 (九州大学大学院工学研究科分子システム工学)

「次世代生体分子アレイ技術-新しい電気化学 DNA チップおよび新規タンパクチップの開発と応用-」

第 329 回 平成 14 年 9 月 3 日 (火)

高橋正行 (フランスナント大学)

「蛍光分析による分子間相互作用の解析：MTH1 タンパクによる酸化ヌクレオチドの認識および Rad51 タンパクのフィラメント形成の解析」

第 330 回 平成 14 年 9 月 3 日 (火)

高津聖志 (東京大学医科学研究所・免疫学)

「B 細胞分化における Btk と転写因子の役割」

第 331 回 平成 14 年 9 月 13 日 (金)

五十嵐和彦 (広島大学医学部医化学)

「ヘムと Bach1 による酸化ストレス応答の転写制御機構」

第 332 回 平成 14 年 9 月 27 日 (金)

Joseph Shlomai (Faculty of Medicine, The Hebrew University of Jerusalem)

「Specific interactions at the kinetoplast DNA replication origin: A story of a DNA network with an evolutionary twist」

第 333 回 平成 14 年 10 月 29 日 (火)

前仲勝美 (九州大学生体防御医学研究所・ワクチン開発構造生物学分野)

「免疫グロブリン様レセプター群の分子認識」

第 334 回 平成 14 年 11 月 21 日 (木)

石田直理雄 (独立行政法人産業技術総合研究所 生物機能工学研究部門生物)

「体内時計の分子生物学」

第 335 回 平成 14 年 11 月 27 日 (水)

六反一仁 (徳島大学医学部栄養生理学)

「TLR と Nox/Duox ファミリーを介した自然免疫応答と発がん」

第 336 回 平成 14 年 12 月 20 日 (金)

高木 智 (東京大学医化学研究所 感染・免疫大部門免疫調節分野)

「造血幹細胞、免疫担当細胞の増殖・昨日制御と Lnk」

第 337 回 平成 15 年 1 月 15 日 (水)

市原 明 (徳島大学)

「第一部：研究 40 年の軌跡 第二部：研究、発表、論文について」

第 338 回 平成 15 年 1 月 21 日 (火)

宮島 篤 (東京大学分子細胞生物学研究所)

「造血と肝臓分化におけるオンコスタチン M の機能」

第 339 回 平成 15 年 1 月 29 日 (水)

仲野 徹 (大阪大学微生物病研究所)

「ES 細胞を用いた造血細胞分化研究」

第 340 回 平成 15 年 1 月 31 日 (金)

安田徳一 (生物情報解析研究センター)

「関連法 Association Study による多因子疾患の候補遺伝子の探索」

第 341 回 平成 15 年 1 月 28 日 (火)

北村俊雄 (東京大学医科学研究所細胞療法分野)

「分子標的療法 恒常的生活型 FLT3 を特異的に阻害する GTP14564 の基礎的検討」

第 342 回 平成 15 年 1 月 21 日 (火)

西村俊秀 (東京医科大学臨床プロテオームセンター、九州大学生体防御医学研究所防御分子構築学分野)

「プロテオミクス技術の現在と展望」

第 343 回 平成 15 年 2 月 7 日 (金)

斎藤尚亮 (神戸大学・バイオシグナル研究センター・分子薬理分野)

「ライプイメージングによる PKC ターゲティングの役割」

第 344 回 中止

第 345 回 平成 15 年 2 月 24 日 (月)

渡邊すみ子 (東京大学医科学研究所 染色体制御分野)

「サイトカインシグナルを用いた幹細胞増幅の試み」

第 346 回 平成 15 年 3 月 10 日 (月)

程 肇 (東京大学・ヒトゲノム解析センター・ゲノム機能解析分野)

「哺乳類の概日リズム形成機構と時計遺伝子 Per の機能」

第 347 回 平成 15 年 2 月 18 日 (火)

小田吉哉 (エーザイ株式会社シーズ研究所)

「創薬プロテオミクス〜エーザイでのチャレンジと課題」

第 348 回 平成 15 年 3 月 6 日 (木)

夏目 徹 (産業技術総合研究所生物情報解析研究センター機能ゲノムグループタンパク質ネットワーク解析チーム)

「タンパク質相互採用大規模解析」

第 349 回 平成 15 年 3 月 19 日 (水)

高木 智 (東京大学医科学研究所感染・免疫大部門免疫調節分野)

「造血幹細胞および B 前駆細胞の産生における抑制性アダプター蛋白質 Lnk」

第 350 回 平成 15 年 3 月 20 日 (木)

横田 淳 (国立がんセンター研究所生物学部)

「遺伝子から見たがん研究の現況と将来」

- 第 351 回 平成 15 年 3 月 28 日 (金)
尾崎紀夫 (藤田保健衛生大学医学部精神医学教室)
「精神障害のゲノム研究：統計的解析を補完するタンパク機能解析および薬理
遺伝的検討を中心に」
- 第 352 回 平成 15 年 3 月 17 日 (月)
西岡憲一 (University of Medicine and Dentistry of new Jersey Robert
Wood Johnson Medical School Department of Nucleic Acid Enzymology)
「クロマチン高次構造の形成・維持におけるヒストン H4・メチル化ライシン
20 の生化学的意義」
- 第 353 回 平成 15 年 3 月 20 日 (木)
Peter D. Burrows (University of Alabama at Birmingham)
「Identification of a novel Fc reseptor expressed in B cells」
- 第 354 回 平成 15 年 3 月 28 日 (金)
服部正平 (北里大学北里生命科学研究所/理研ゲノム科学総合研究センター)
「ヒトゲノム解読の完成」
- 第 356 回 平成 15 年 3 月 25 日 (火)
高井俊行 (東北大学加齢医学研究所、CREST)
「Fc 受容体をはじめとするイムノグロブリン様受容体分子群による免疫アレ
ルギー疾患の制御機構」

第 1 回東大医科研・九大生医研合同シンポ

Two ubiquitin ligases control
degradation of CDK inhibitor p27

ジウム ―ゲノムから個体へ―

三宅 健介 東大医科研感染遺伝学

3 月 7 日 (金)

Innate endotoxin recognition by
CD14, MD-2, and Toll-like receptor4:
Unique

午後の部I 座長 吉村 昭彦

roles for MD-2

九大生医研免疫制御

午後の部II 座長 服巻 保幸

高津 聖志 東大医科研免疫調節

九大生医研ゲノム機能学

Immunogenicity of Peptide-25 of
Ag85B in Th1 development: role of
IFN-γ

林 健志 九大生医研遺伝情報実験セン
ター

中山 敬一 九大生医研分子発現制御

dbQSNP: A democratic approach

for quantitative SNP study

古川 洋一 東大医科研ヒトゲノム解析

センター

Identification of genes associated with carcinogenesis and novel molecular

targets for cancer treatment using cDNA microarray

特別講演 座長 渡邊 武

九大生医研所長

Prof. Fritz Melchers (University of Basel)

1. Plasticity of hematopoietic stem cells.

2. Development and selection of peripheral B lymphocyte repertoires.

3月8日(土)

午前の部I 座長 吉開 泰信

九大生医研感染制御

住本 英樹 九大生医研増殖分化制御

Molecular mechanism for activation of the superoxide-producing NADPH oxidase

吉田 裕樹 九大生医研免疫制御

Critical role of IL-27/WSX-1

signaling in the commitment of Th1 development

午前の部II 座長 谷 憲三郎

九大生医研ゲノム病態学

岩倉 洋一郎 東大医科研ヒト疾患モデル

研究センター

The role of IL-1 in the development of autoimmune arthritis

清野 宏 東大医科研炎症免疫学

Uniqueness of tissue organogenesis for mucosal immunity and inflammation

九州大学生体防御医学研究所20周年記

念国際シンポジウム「21世紀の医学」

11月22日(金)

1. ストレス応答 Stress Response

Chairman: Yusaku Nakabeppu

Hiroshi Kasai (Univ. of Occupational & Environmental Health, Japan)

Formation of oxidative damage in DNA and nucleotides, and response of

repair enzymes

Bruce Demple (Harvard School of Public Health, USA)

Repair pathways for oxidized
abasic sites in DNA: coordination and
complications

Serge Boiteux(CEA, France)

Base excision repair of oxidative
DNA damage in mammalian cells:
mechanisms and biological
functions

Mutsuo Sekiguchi (Biomolecular
Engineering Research Inst., Japan)

Roles of DNA repair and
apoptosis in preventing induction of
tumors

**2.細胞・遺伝子療法 Cell and Gene
Therapies** Chairman: Kenzaburo
Tani

Inder Verma (Salk Inst., USA)

Gene therapy: medicine of 21st
century

Barrie Carter(Targeted Genetics
Corp., USA)

Gene delivery as a therapeutic
modality

Richard C. Mulligan (Childrens
Hospital, Boston, USA)

New strategies for cell and gene
therapies

2 . 免 疫 Immunology

Chairman: Takeshi Watanabe

Tak W. Mak (Ontario Cancer Inst.,
Canada)

Apoptotic and cell survival
pathways

Tasuku Honjo (Kyoto Univ.,

Japan)

Molecular AID linking class
switch recombination with
somatic
hypermutation

11月23日(土)

1 . 免疫 Immunology (continued)

Chairman: Akihiko Yoshimura

Tadamitsu Kishimoto (Osaka
Univ., Japan)

Negative regulation of
cytokine signals and manipulation of
immune

disorders

Shigekazu Nagata (Osaka Univ.,
Japan)

Apoptosis and phagocytosis

2 . 癌 Cancer Chairman: Masaki
Mori

Tetsuichiro Muto (The Cancer
Institute Hospital, Japan)

Recent progress in colorectal
cancer treatment

Kay Huebner (Kimmel Cancer
Inst., USA)

The role of the FHIT gene, a
common fragile region FRA3B, in
cancer